

平成二十七年 度

四天王寺中学校入学試験問題

国 語

注意 ○ 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

○ 字数制限のある答えは句読点・記号も一字とします。

「次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

おれは中田ヒロシ、花山小学校の六年生だ。マサヒロは母ちゃんのいとこで、中学校卒業式の日に父親と大げんかして村を出て行き、非行をくり返していたらしい。そんなマサヒロがある日、村にもどってきた。

帰りの道で、マサヒロはアイスクャンディを二本買った。

「おぼはん、あずき、二つくれや」

「六十円やで」

「わかつとるわい」

マサヒロはシャツのポケットをさぐっている。

「はよしてえな。キャンデー、とけてしまうで」

「じやかましい！ がたがためかすな。今出したら」

シャツのポケット、ズボンのポケット、右やら左やらおしりやら、ありとあらゆるポケットをさぐってみなければならなかった。

① 後ろから見ていると、まるでダンスでもしているようで、おれは思わず笑ってしまった。

「あいかわらず、がめついばあじやのう。一円もまけよらん」

「まからずや」のおぼあさんは、マサヒロが子どものときからもうすでに

「ばあじやった」

とマサヒロはいった。

「おつ、宮さんで休もうや」

防火用の堀の横にリヤカーを止めて、天満神社の石段をのぼった。まわりを杉のすぎの大木が囲んでいる。その根っこに腰をかけてアイスを食べた。

昔は秋の収穫が終わると村の人たちがこの神社のa 境内に集まって歌舞伎を楽しむのが習慣だった。幕末に建てられたというかやぶきの舞台には、まわり舞台のb ソウチも残っている。

カナカナカナカナ……

杉の木立でヒグラシがもの悲しい鳴き声をたてた。

「学校がはじまるのう」

ヒグラシの声を聞きながらマサヒロがいった。

「ぼうず、おまえ、大きなつたら何になるつもりじゃ？」

「まだ決めてないけど、おれ、理科が好きやねん。虫とか魚とか……。せやから、何かそんな仕事したいなあて思うとる」

「そうか。まっ、何にしてもまじめにやれよ」

まじめに——とマサヒロがいうのがちよつとおかしかったけど、② おれもまじめな顔をして

「うん」と答えた。

「おつちゃんは何が好きやったん？」

「わしか？ わしは学校なんて給食くに行きよっただけじゃけん、とんと勉強はせなんだのう」

「母ちゃんが、おつちゃんは絵がうまかったていうてたけど」

「アヤコがか？ ハハハ……、どうせ、あいつの口からはろくなことを聞いとらんじやろうが」

「まあね」

「ほれ見い。しかし、ほんまのとこ、学校では勉強せなんだのう。せやけど、社会科だけは『まあまあ』やったな。行ったこともない町を地図で見ながら、『いっぺん行って見たい』と思うたもんや」

お宮の上をカラスのムれが飛んで行った。

③ 「ほいじやが、この『まあまあ』がいかんだなあ……」

マサヒロは独り言のようにいつて、空を見あげた。

空は境内を囲んだ杉の木でまるく小さく切り取られている。

「ここは前も後ろも山に囲まれとるじやろ。せやから、わしはいつも思うとったな。『この山のむこ

うには、どんな町があつてどんなくらしがあるんじやろうか』て」

冷んやりとしたすずしい風がふき過ぎて行った。

マサヒロはどんな町でどんなくらしを見つけたのか、おれは聞いてみたかった。

マサヒロの横顔は、ほつぺたに深いしわが刻まれていて、ドキンとするほどさびしそうだ。

「よいしょっ」

マサヒロはそのさびしさを消すようにかけ声をかけて、ポンとひざをたたいて立ちあがった。

「子どものとき、ようこで遊んだもんじや」

なつかしうに拝殿をのぞいたり舞台にあがって歩きまわったりしている。

「何して遊んだん？」

「かくれんぼしたり、かんけりしたり……」

マサヒロにもおれたちみたいな子どものときがあつたんだ。おれがマサヒロくらいの年になったら、

おれは何をしているだろう。

おれはふと自分がマサヒロといっしょに遊んだことがあるような気がした。

おれも舞台にあがってみようと思ふとき、境内をなわばりにして飛びまわっているハンミョウ

を見つけた。

こいつはからだ全体が緑色に光るきれいな虫で、毛がいっぱいはえている長くてスマートな足を持ち、背中に赤い十字の紋をつけている。そのうえいにおいまで出すというおまけつき。道にd つて飛ぶ習性があるために、山道なんかでこいつにあうと、人の前をひよいひよいと飛んで行く。それでミチオシエなんて名前がついているんだ。

でも、もしハンミョウがしやべれたら

「関係ないわい。迷惑なだけじや」

っていうだろうけど。

すばしっこいやつだ。おれは何度もからぶりをし、土をつかんだ。

「このやろう！」

目の前にもどってきたところを、思いっきりおさえつけた。——つもりだった。

ところが——

ズデン！

次の瞬間、おれは杉の根っこに足を取られて地球にしっかりとだきついていった。

「いってー」

すりむいたひざごぞうをさすりさすりあたりを見ると、マサヒロの姿がない。

「あれっ、おつちゃん」

返事をしたのはヒグラシだけだ。

不安に思いながら、もう一度呼んだ。

「おつちゃん」

返事はない。

舞台の横手にまわってみた。

いない。

石段をかけのぼった。

拝殿の裏をのぞくと、やつとそこにマサヒロはいた。

ひざをかかえてしゃがんでいる。

「何や、こんなところにおったん。何しとるん」

マサヒロはひざの上にあごをのせて、地面の一点を見すえている。

そこにはアリジゴクが大きな巣を作っていた。すりばちどころかまるで火口だ。

クロヤマアリが落っこちてもがいている。アリは足と触覚をせわしなく動かして、なんとかはいあがろうと必死の努力を続けている。

④ マサヒロは、そのアリのをじつと見すえているのだった。

あがけばあがくほど、砂はくずれる。地獄の砂だ。
とつぜん、火口の底がぼこつと動いて、その瞬間にクロヤマアリの姿は消えていた。

問1 線 a b c d の漢字はよみがなをつけ、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 線①とありますが、「思わず笑ってしまった」ときの「おれ」の心情の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の気持ちに正直で思い立ったらすぐに行動するマサヒロの、そぼくな人柄にひかれながらも子どもっぽい行動を冷めた目でながめている。

イ 見られていることを気にしないマサヒロの、大らかな人柄をもてあましながらも他の大人にはない魅力と親しみを感じて喜ばしく思っている。

ウ 自分の所持金を確認もしないでアイスクャンディを買いおうとするマサヒロの、軽はずみな言動とこっけいなしぐさにあきれながらもふきだしている。

エ 少しのお金しかないのにアイスクャンディを買いおうとあせっているマサヒロの、かざり気のない人柄とユーモラスなしぐさに親愛の情を感じている。

問3 線②の「おれ」の心情の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア マサヒロが「まじめ」だとはとうてい思えないが、マサヒロがまじめくさっておれに助言するのでマサヒロを傷つけないようにおとなしく聞いている。

イ マサヒロは世間から「まじめ」と評価される人間ではないが、おれはマサヒロを信頼しマサヒロのことを自分への助言としてまじめに受けとめている。

ウ マサヒロにとって「まじめ」な話をできるのはおれだけなので、マサヒロの話を聞かなくては申し訳なくまじめに聞く姿勢をみせようと努力している。

エ マサヒロは大人のいう「まじめ」とはちがった生き方をしているが、実はほんとうにまじめなのはマサヒロではないかと考えて真剣に耳をかたむけている。

問4 線③は、「しかし、この『まあまあ』がいけなかったなあ……」という意味です。このときのマサヒロの心情の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 何事につけてもいいかげんだった子どものころを思い出して、心から深くはじめる思い。

イ 今考えれば、村を出てもっと様々な体験をしておけばよかったとしみじみとくやむ思い。

ウ 未知の土地に行つて見たいと思つて村を出たが、外の世界は厳しかったという苦しい思い。

エ 知らない土地にあこがれ、勇気を出してこの村を飛び出した当時の自分をなつかしむ思い。

問5 線④のマサヒロを見たとき、「おれ」はどのような気持ちだったと考えられますか。そのことばを抜き出しなさい。

問6 「おれ」がマサヒロと話すことで、マサヒロをより身近に感じたことがわかる最も適当な一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問7 本文で「虫」はどのような役割を果たしていますか、あてはまらないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 場面が転換するきっかけをあたえるもの。

イ 登場人物の状況や心理を暗示するもの。

ウ この物語の季節がいつごろであるかを示すもの。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いま、「先進国」では「IT革命」が急速に進んでいます。「IT」というのは「information technology」とつまり「情報技術」のことです。

確かにITをはじめとするさまざまな文明の^a利便性の発達により、「昔」とは比較にならないほどの容易さで、多量の情報を得ることが可能になり、^①その結果、現代人は「昔」の人間とは比較にならないほどに、多量の知識、情報を持っています。

いままでは人類が獲得した情報収集手段を歴史的に、また極めておおまかに^bレレキョしますと、直接観察・見聞・書籍・ラジオ（音声）・テレビ（音声と映像）・インターネットとなります。これは、そのまゝ、情報収集の「効率」と「容易さ」の向上の順番です。

まず、書籍のおかげで私たちは時間と空間をこえた情報を得ることができるようになりました。さらに、活字と^cインサツ術の発明は情報を量ばかりでなく、時間的、空間的にも著しく拡大したので、そして、テレビは人類の知識量を飛躍的に増大させました。最近では、パソコンあるいは携帯電話を通じてインターネットを利用すれば、ありとあらゆる情報が瞬時に、きわめて容易に得られるようになっていきます。

しかし、人間の脳の活動と「情報の意味化」において、^②文字メディアとテレビのような映像メディアとは根本的に異なります。

文字メディアの場合、まず文字を、そして読むことを学び、習得しなければなりません。また、文字というそれ自体は具体的な「像」を持たない記号の羅列である文、文章から場面や状況や内容を自分自身の頭の中で具体化しなければならぬのです。自分自身による「想像」「組み立て」の作業が必要なのです。そのためには「心の眼」が不可欠です。

ところが、テレビのような映像メディアは、具体的な像を音声つきで与えてくれます。自分自身による「想像」のような作業は不要なのです。したがって、その分、知識の増量は容易で迅速でもあるわけです。

この「想像」の作業が必要か否かは、脳の活性化、智慧の発達のことを考えれば、決定的なちがいです。ITの発達によって、人間は知識を飛躍的に増したのですが、それに比例して智慧を低下させたように思われるのです。智慧は自分の頭で考えることによって身につく能力だからです。ちなみに「知識」は「あることがらについて知っていること」で、「智慧」は「物事の道理をさとる、適切に処理する能力」です。

もちろん、情報収集手段が直接観察・見聞や書籍などに限られていた「昔」は知識の量がその人物の価値を決める大きな要素でした。^③「もの知り」は大きな価値を持っていましたし、尊敬もされました。しかし、現在のようにITが発達した社会では、知識の量については、人間がどのようになんばっても、膨大な記憶量をもつパソコンやインターネットに絶対になかなわないのです。つまり、人間の価値として、知識の量は大きな意味を持たないのです。人間の価値は智慧の量にかかっているのです。

フランスの思想家・モンテーニュが「知識がある人はすべてについて知識があるとは限らないが、有能な人はすべてについて有能である」といっています。また、ニュートンと並び称される物理学者・アインシュタインは「想像力は知識よりも重要である。知識には限界があるが、想像力は世界を包みこむことさえできるからである。」といっています。

④ 私は、みなさんに、世界を包みこむことさえできる想像力、物事の道理をさとる、適切に処理できる智慧を身につけていただきたいと思うのです。このような想像力や智慧は、教科書を暗記しただけでは決して身につかないのです。「筋道立てて考える」ということこそ智慧の本質なのです。

もちろん、私は「知識は不要である」などといったものではありません。知識は「基礎となる」「普遍的な土台」です。知識は大切なものです。しかし、教科書に書いてあることを、そのまま機械的に暗記しても（テストの好成績にはつながるかも知れませんが）、それだけでは何の役にも立たないのです。

⑤ 私たちは「勉強」によって学ぶべきことは、「考える」「基礎となる」「普遍的な土台」です。知識は大切なものです。しかし、教科書に書いてあることを、そのまま機械的に暗記しても（テストの好成績にはつながるかも知れませんが）、それだけでは何の役にも立たないのです。

⑥ 私たちは「勉強」によって学ぶべきことは、「考える」「基礎となる」「普遍的な土台」です。知識は大切なものです。しかし、教科書に書いてあることを、そのまま機械的に暗記しても（テストの好成績にはつながるかも知れませんが）、それだけでは何の役にも立たないのです。

⑦ 私たちは「勉強」によって学ぶべきことは、「考える」「基礎となる」「普遍的な土台」です。知識は大切なものです。しかし、教科書に書いてあることを、そのまま機械的に暗記しても（テストの好成績にはつながるかも知れませんが）、それだけでは何の役にも立たないのです。

だれにとつても「暗記」は楽しいことではありませんが、「自分の頭で考えること」は楽しいし、人生を豊かにしてくれます。つまり、智慧は人生を楽しみ、豊かにしてくれるのです。また、智慧の有無は人生の「成否」を分けることも確かです。念のために書いておきますが、ここで私がいう人生の「成否」の要素は「出世」できるかどうか、「金持ち」になれるかどうか、というようなことではなく、人生の充実ぶり、物心両面の豊かさのことです。

ところで、いままで何度も「考える」という言葉を使ってきたのですが、じつは、「考える」ということは、それほど簡単なことではないのです。^⑤「考える」ことの難しさは「知識を得ること」に比べ、「智慧を身につけること」が難しいことに直結します。

^⑥私は、「考える」原動力は「疑問を持ち続けること」だと思つていますが、じつは、ゲーテが「人間に知的な欲求がはじめてきざしてくるのは、その人間が重要な現象に眼を留め、注意をひかれた時である。この知的な欲求が持続するためにはさらに深い関心が生じてこなければならぬ。」といつていますように、「疑問を持ち続けること」は簡単なことではないのです。

つまり、問題は「その人間が『重要な現象』に眼を留められるかどうか」であり「注意をひかれるかどうか」なのです。また、「その『現象』を重要と思えるかどうか」なのです。

さらには「知的欲求を持続する」ためには、まず「持続」以前に、「知的欲求を持てること」、「強い関心が生じて来ること」が必要です。

結局、私は、子どものころのような「なぜ？」という問いこそ、人に考えることをさせ、人生をあきさせないエネルギーの源だと思ふのです。そして、その「なぜ？」は常識や、世間体や、「権威」にとられない素直な観察から生まれると思ふいます。

注 ※普遍的：どんなものごとにも例外なく共通している様子

問 1 線 a b c のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 線①とありますが、多量の情報を得ることが可能になった結果、どのような好ましくないことが起こったと筆者は考えていますか。「こと」に続くように十字以内で抜き出しなさい。

問 3 線②とありますが、「文字メディア」と「映像メディア」の根本的なちがいは何ですか。十字以内で抜き出しなさい。

問 4 線③とありますが、昔は「もの知り」が大きな価値を持ち、尊敬もされたのはなぜですか。二十字以内で書きなさい。

問 5 線④とありますが、
(1)「想像力」が「世界を包みこむことさえできる」のはなぜだと考えられますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 想像力はあらゆる動物のなかで人間しか使うことができない力だから。
イ 想像力は個人の才能によるのではなく後天的な努力で得られる力だから。
ウ 想像力は知識の量にかかわらずその人の個性や感性にもとづく力だから。
エ 想像力は眼前にないものについても思いをめぐらすことができる力だから。
(2)「智慧」を比喩で言いかえたことは、文中から抜き出しなさい。
(3)「智慧」を身につけることには、どのような利点があるのですか。簡潔に述べていることを、
を、「こと」に続くように十五字以内で抜き出しなさい。

問 6 線⑤とありますが、「考える」ことの難しさ」が「智慧を身につけること」の難しさに直結するのはなぜですか。ここより前の文中から解答らんにあてはまるように二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問 7 線⑥とありますが、「疑問を持ち続ける」ためには何が必要だと筆者は考えていますか。二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

三 次の文章は「大震災後を生きる」という講演の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

① 私たちは自分の体験的過去ですら、すべてを記憶しているわけではありません。たとえば、今朝は歯をみがいて顔を洗って朝食を食べて電車に乗って学校に来了。それを思い出すことはできますが、たとえば電車の窓から見た風景やとなりの席のおばさんの顔といったこまごまとしたことで、すべて思い出すわけはありません。

印象に残った事実は鮮明に思い出すことができるでしょう。しかし、あまり印象的ではない出来事はすぐに忘れてしまいます。イヤなこと、苦しかったことはなるべく忘れたいと思う。つまり私たちは過去に対して選択し、削除し、焦点化するという編集作業を無意識に行っているのです。

サッカー部員として出場した全国大会で優勝したこと。そういった強い出来事はクロージアアップされます。すべての出来事が等しく思い出されるわけではありません。私はそれを「物語り」と呼びたいのです。

「り」が入っているのはなぜかというと、漢字二文字の「物語」とすると桃太郎の話や源氏物語、平家物語などを連想しますが、私が言いたいのはそうではなく、「私たちの語り」のほうに重点を置いているからです。自分の体験を言葉にして語ること、はじめて自分の経験を組織化することができます。他人に伝えることもできるでしょう。

おそらく言葉を持たなければ歴史もない。そう言い切つてよいと思います。犬や猫も記憶は持っていますが、歴史は持っていない。歴史は言葉によつてはじめてかたちづけられるものです。なぜなら、② 歴史は記憶の編集作業であり、それを一つのストーリーにまとめあげる言語化の作業だからです。ストーリーとしてまとめるとき、先ほど言った選択や削除、焦点化といったことが行われ、さらに③ 同じ出来事を経験した他人の記憶とすり合わせるによつて記憶が共同化されます。つまり歴史とは、共同化された記憶という側面をもっています。

「物語り」というと※フィクションか……と思うかもしれませんが、私が言っているのはそうではありません。「歴史の物語り論」と呼んでいるものは、映画などのナレーション（語り）と考えてください。ナレーションはフィクションと異なり、整合性を持っていないわけではありません。「歴史の物語り」は、少し難しい言葉ですが「通時的整合性」と「共時的整合性」をあわせ持っているのです。

通時的整合性とは、ある出来事が起きて次の出来事が起こる。つまり時間的順序の④ つじつまです。共時的整合性とは、ある出来事が起きたことと同時代に起きたほかの出来事とが矛盾をきたさないことが必要ということです。

「物語り」の正しさというのは、あくまでもさまざまな証言や証拠、歴史的な史料との整合性によって確かめるほかはないと私は考えています。過去はすでに消えているわけです。それでも過去はあったという確信を私たちはいだいています。過去がなければ現在の私たちもないわけですから。

⑤ 天空のかなたに過去そのものがあるわけではなく、過去があるとすれば私たちが言葉をもつて語る「物語り」の中にある。私たちが過去について、さまざまな史料にもとづいて書かれている行為の中に、あるいはそれによつてかたちづけられた「物語り」の中に過去は存在するのです。

さて、私がなぜ「物語り」ということを東日本大震災と関連づけて話しているのか。それは⑥ 「物語り」の持つ力が、これからの復旧・復興や、家族や家を失った人の心のケアに対して非常に重要だと考えているからです。

仙台市のとりに名取市という町があります。津波の被害を受けましたが、その名取市で精神科クリニックを開業している桑山紀彦さんという医師は次のようなことを述べています。

「心のケアが必要な人にとつて、⑦ 記憶をつむぎ出し、それを物語化し、どういう形でどこにしまう、つまり奉納するかという一連の作業が必要です。」

「心の傷をケアするのは、薬の処方を考えるのではなく、患者さんたちの物語をいっしょに作って

く作業だということを改めて学びました。」

東日本大震災では死者・行方不明者含めて二万人近くの命が失われました。⑧ 非常に多くの方々家族を失い、また家屋などの財産を失うという喪失の体験をしています。

その方々は、自分の体験をどう位置づけたいかわからないし、被害や被災の状況をどう納得したいかわからないのです。桑山さんは、そうした人々に対して記憶をつむぎ出し、物語化することが心のケアにとつて重要な作業になると述べています。私はそれを「⑨ 物語の再構築」と呼んでいます。

私たちは思いもかけないような悲惨な出来事、あるいは耐え難いくらいの苦しい出来事に出あったとき、それを言葉にして起承転結をもった物語に語りなおすことによつて、それらの出来事を耐えることができるのです。

大震災で家族を失い家財を流された人は、家族の歴史や過去もいっしょに流され、失ってしまった。ガレキのなかから写真やアルバム、卒業証書を探し出し、どろにまみれたそれらを洗っている被災者やボランティアの人たちの姿をテレビで見たことがあるでしょう。先ほど「物語りにはさまざまな証拠が必要だ」と言いましたが、子どもを失った人、商売道具などの財産を流された人は証拠を流されてしまった。だから、この先あるはずだった未来の物語も失ってしまったのです。

ですから、つらい体験、苦しい体験をもう一度自分の言葉で語りなおす「喪の作業」が必要なのです。みなさんもおじいさんやおばあさん、親戚といった身近な方が亡くなった体験をしたことがあるかもしれません。仏教でいうと四十九日、七週間のあいだ喪に服して、亡くなった方を思い出す作業をしますね。亡くなった方を思い出して語る行為を続ける。それによつて亡くなったという事実を自分の歴史の中に位置づけて、失われた方との関係を語りなおすことで喪失の体験を自分自身に納得させる。それが喪の作業、グリーフワークと呼ばれるものです。

東日本大震災で大なり小なり被害を受けた人は、自分に関する物語を語りなおし、あるいは再構築する必要があります。と云えます。物語る行為が心のケアに重要な役割を果たすのは、自分が何者であるかということをおし、語りなおすことが、これから生きていくために必要だからです。

これは何も震災に限った話ではありません。みなさんのような中学生、高校生が進学するという人生の節目で、自分が何者であるのか、これまで何をしてきてこれから何をすべきかを考え直すことと共通しているのです。

注 ※フィクション：作り話

問1 — 線①とありますが、それはなぜですか。「くから。」に続くように四十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

問2 — 線②とありますが、筆者はこのような作業を何とよんでいますか。文中から一語で抜き出さない。

問3 — 線③とありますが、記憶が「共同化」されることにはどのような意味がありますか。「こと」に続くように八字以内で書きなさい。

問4 — 線④⑦のことばの意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

④「つじつま」

ア 筋道 イ 正しさ ウ 必然性 エ 成り立ち

⑦「記憶をつむぎ出す」

ア むりやり記憶を引き出していく

イ 少しずつ記憶を引き出していく

ウ 精いっぱい記憶を引き出していく

エ 絶え間なく記憶を引き出していく

問5 — 線⑤は、筆者のどのような考えによるのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私たちはあまり印象に残っていない出来事はすぐに忘れてしまうので、客観的な視点で言語化して記録することが不可欠だ。

イ 私たちは自分の体験的過去でさえすべてを記憶しているわけではなく、歴史は言葉によってはじめてかたちづくられるものだ。

ウ 過去にさかのぼってすべての客観的な事実を集めることは不可能であり、その時代に生きた人の言葉だけが歴史のよりどころだ。

エ 過去がなければ現在の私たちはないという確信にもとづいて語ることによって、共有化された歴史を明らかにすることが可能だ。

問6 — 線⑥とありますが、「物語り」はどのような力を持っていますか。「く力」に続くように十字以内で書きなさい。

問7 — 線⑧とありますが、「家族」や「家屋などの財産」を失った人々は、同時に何を失ったと筆者は述べていますか。八字以内で二つ抜き出さない。

問8 — 線⑨とありますが、

(1) 喪失の体験をした人々にとって、「物語の再構築」にはどのような意味がありますか。次の文の「 」にあてはまることばを三十五字以内で書きなさい。

「物語の再構築」を行うことによって、「 」 という意味。

(2) 喪失の体験をした人々にとっての「物語の再構築」を言いかえたことばを抜き出さない。

※ には書かないこと

※

※

※

※

一 問 1

a

b

c

れ

d

って

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

二 問 1

a

b

c

問 2

こと

問 3

問 4

問 5

(1)

(2)

(3)

こと

問 6

から

問 7

三 問 1

、

から。

問 2

問 3

こと

問 4

④

⑦

問 5

問 6

力

問 7

問 8

(1)

(2)

受験番号

名前